

なごやま みずよけ  
名古山の水除け

水害から家を守る

南信濃の南和田名古山のゆるい斜面は、遠山地震(1718(享保3)年8月22日 M7.0)による斜面崩れや、飛び石によってできたものである。その礫斜面を後世の人たちが石積みにして畑や屋敷をつくってきた。江戸時代につくられた水除けの堤防が残っている家があり、昭和の初めの土石流でも家を守った。



背後の家を守る水除け



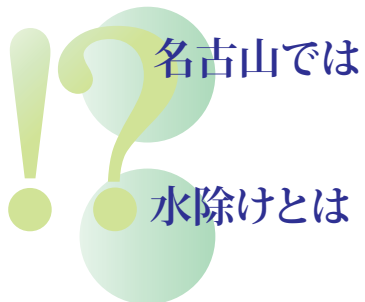
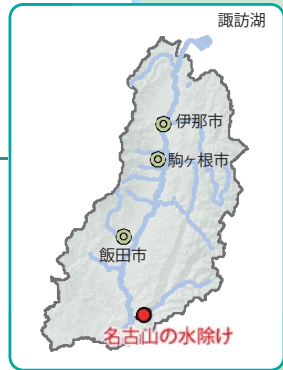
家屋の手前に造られ、山からの土砂の流れを変える

山からの土砂の流れ

information

□ アクセス  
天竜峡ICから35km  
車→1時間10分

□ 所在地  
飯田市南信濃南和田



山からの土砂を跳ね返し、家を守るために造られた。そのため、水除けの向きは土砂の方向に対して斜めに造り、家を守る形となっている。

水を防ぐための設備や道具。堤防のことを指す場合もある。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)